令和３年１２月１日発行

多摩永山中学校だより

令和３年度　第８号

多摩市立多摩永山中学校　編集　齋藤　裕
http://schit.net/tama/jhtamanagayama

令和３年は今月で終わり、令和４年に向かうこれから

12 月に入りました。コロナウイルスに関する状況は 4 月から考えるとここ多摩市だけでなく全国的に驚くくらいに感染レベルが低くなりました。しかしながら世界に目を転じると、まだまだ感染が広がっている国が数多く見られます。コロナウイルスに感染した国を赤色で塗りつぶしてみると地球上の国すべてが赤く塗られることになります。コロナウイルスの感染対策は地球規模で考えていかなければならないということを強く認識させられました。環境問題も同様です。

先日イギリスで COP26 という地球の気候変動問題を解決するために、各国で力を合わせて再生可能エネルギーへの転換を図るための会議が開かれました。そこでは人間や生き物が安心して生きていくためには、現在大量に放出されている二酸化炭素を計画的に減らしていくことが大切である、という認識の共有化が図られました。しかしながら、各国の実情からすぐに再生可能エネルギーへの転換、つまり風力や太陽光を利用したエネルギーに転換していくことはかなり困難であるということで、足並みがそろいませんでした。「今のままでは地球があぶない」という認識はできたのですが、「これからエネルギー転換を積極的に行う」という共通理解は得られませんでした。

このことを受けて読売新聞は次のような記事を掲載しています。

今世紀末までの世界の気温上昇幅（産業革命前比）について「1.5 度以下に抑える努力の追求を決意する」と明記されたが、各国が掲げるすべての温暖化対策が実行されてもパリ協定の努力目標「1.5 度」は達成できない見通しだ。今後、災害が増えるなどして破局的な事態が起こりかねない。

国連に加わる科学者らでつくる調査では、COP26 開催前の各国の温室効果ガス排出削減を巡る 2030 年までの中期目標では、上昇幅が今世紀末時点で 2.7 度に及ぶと分析した。一方で、中国の 60 年カーボンニュートラル（排出量の実質ゼロ）宣言などを考慮すると 2.1 度まで、さらに COP26　期間中にインドが表明した 70 年カーボンニュートラル宣言などを考慮すると 1.8 度まで、それぞれ下がると試算した。

しかしながら 1.5 度に届いておらず、そもそも各国が対策を全て実行に移せるかも不透明である。気象庁気象研究者は「上昇幅の差はわずかでも、起こる現象の違いは大きい」と話す。

研究団体が 8 月に公表した報告書は、産業革命前に「10 年に 1 回」の頻度で起こる極端な高温が 1.5 度上昇で 4.1 回、2 度上昇すれば 5.6 回に増える」と試算している。海面水位の上昇幅は 1.5 度上昇で 40 ㌢台、2 度上昇では 50 ㌢超に達するとした。

気象庁によると、日本では気温の上昇幅が約 2 度の場合、「滝のように降る」と表現される 1 時間当たり 50 ㍉以上の雨の発生率は 1.6 倍に増えると予測されている。今後約 20 年間で 62%の砂丘が消失し、コメの品質が全国的に低下したり、巨峰の主産地で着色不良が頻発したりする農業被害の恐れもあるという。

世界の気温は既に 1 度上昇しており、海水面上昇の影響で海抜が低い島しょ国は国土消失の危機にある。南太平洋の島国フィジーの首相は「10 年後には 1.5 度を超えてしまう。我々島国を海面より上に留めてほしい」と訴えた。これは温暖化により北極や南極の氷が解け、海面上昇により国が水没してしまう恐れがあるということを訴えている。

会議が行われた英国には、世界から若者たちが集まった。「地球を救おう」。気候変動対策の強化を求めるデモが連日行われ、日本の若者たちも他国の同世代と手を携えて声を張り上げた。

多摩永山中では、学校敷地を取り囲んでいる松の木が枯れてしまい、倒木の恐れがあるということで近年たくさんの松の木が伐採され、学校周辺の松の木が本当に少なくなってしまいました。またここ 3 年間、冬に雪が多く積もるということがなくなっています。

12 月、年の瀬を迎え、新年に向かう準備を進めていきますが、その中でほんの少しでも地球の未来について考えながら過ごしてもらえたらと思います。自分にできることは何だろうか。将来自分自身が生きていくことのできる環境を維持するためにどうしたらいいのか、一人ひとりがやらなくてはならないことを考えてみましょう。

◆　部活動等の表彰　◆

◎　多摩市身のまわりの環境地図作品展

・多摩市長賞　作品「移りゆく多摩市」
　３年　大日向　恵惟

・佳作　作品「多摩の川の変化について」
　２年　菊地　みさと

◎　多摩市民大会（多摩市総合体育館）

・女子バスケット　１位

・男子バスケット　４位

・優秀選手賞（塚野　渚・菊地　美緒・鈴木　奏）

◎　多摩市民体育大会（多摩東公園テニスコート）

・ジュニアソフトテニス大会・団体戦
　中学生女子の部　準優勝
　多摩永山中学校Ａチーム
　中学生男子の部　３位
　多摩永山中学校Ａチーム

◎　第３９回全日本ジュニア新体操選手権大会
　３年　矢島　優聖

・男子個人種目別スティック　国士舘ジュニアＲＧ
　第４位　得点　１３．１５０

・男子個人種目別リング　国士舘ジュニアＲＧ
　第４位　得点　１３．０００

・男子個人種目別クラブ　国士舘ジュニアＲＧ
　第５位　得点　１３．７００

・男子個人総合　国士舘ジュニアＲＧ
　第６位　得点　５２．４５０

・全日本ジュニア新体操選手権大会 優勝！
　「国士舘ジュニア RG」

昭和４６年４月１日　永山中学校設立

本校は、東京都南多摩郡多摩町立永山中学校としてスタートしました。本校舎未完成のため、多摩中学校の木造校舎の一部を使用して開校しました。４月９日、終日雨の中、多摩中学校体育館を借用し入学式を挙行しました。保護者の参列者６５名、来賓１０名でした。全校生徒は、男子３８名、女子３３名、合計７１名でのスタートになりました。当時の教職員の願いは、生徒に、「健やかに、美しく育って欲しい」だったようです。そして、その願いを、記念樹に託し、ヒマラヤ杉２本、枝垂れ桜２本を植樹しました。昭和４９年４月１９日には、学校緑化デーとして、斜面に松、ナナカマド、ムマビバ、ツガなど１３００本、全校生徒、父母も参加して植樹しました。こうして、現在の多摩永山中学校の素敵な松があるのですね。残念ながら、記念樹のヒマラヤ杉と垂れ桜は、現在見当たりません。そして、松くい虫の発生で、多摩永山中の松は、全滅してしまいそうです。保全のために市役所にお願いしましたが、薬による対応等ができないそうです。とても悔しいことですが、何もしないで、ただ枯れていくことを見届けるしかないそうです。これは、多摩永山中学校の松だけに限りません。多摩永山中学校の敷地は、とても広いです。主事さん２名と指定業者の方々の入念な手入れで、いつも綺麗に保全されていますが、枯れ行く松の伐採を、指をくわえて見ているだけの数年間でした。そのため、敷地保全に向けて学校運営協議会で今後の手立てを考えていこうと思っています。同じ頃に植樹されたであろうヒマラヤ杉は、多摩永山中学校のお隣、東永山複合施設（旧東永山小）に現存しています。下の写真の松ぼっくりは、東永山複合施設産のヒマラヤ杉松ぼっくりです。

多摩永山中産のみかん

昔、みかんは、段ボールか木の箱に入ったものをまとめ買いし、お正月の限られた期間にだけ食べた記憶があります。それ以外は、冷凍みかんか缶詰でした。今は、１年中食べられてありがたみが薄れていますが、旬のみかんが食べられることは、何よりです。多摩永山中にもみかんの木が１本あり、今年は、立派な実をつけています。みかんの数は、隔年で多かったり少なかったりしています。今年は、多いようです。

みかんが食べたくて、みかんを食べた後の種を蒔いて木を育てましたが、私の育った群馬では、結実しませんでした。しかし地球温暖化の為か、現在では実を結んでいます。良いのか悪いのか考えさせられます。みかん栽培の北限は、日立市十王町内で栽培されるみかんとか福島県広野町役場に近い傾斜地で栽培されるみかんとか言われています。また、面白いのは、新潟県の佐渡島です。ここは、みかんとリンゴの両方が栽培できる唯一珍しい場所です。（副校長　藤塚　正）